富	山高等專	門学校	開講年度 平成30年度 (2	2018年度)	授業科目	校内練習船実習 I			
科目基础	楚情報								
科目番号		0027		科目区分	専門 / 必修	<u> </u>			
受業形態		実験・実	習	単位の種別と単位	滋数 履修単位:	1			
開設学科		商船学科		対象学年	1				
開設期		通年		週時間数	1				
教科書/教	 女材	乗船実習	ノート、専門教科(航海概論等)で使						
担当教員		中松 英也							
到達目		1,							
1. 船内: 2. 船舶: 3. 非常: 4. 海図:	生活に必要の運航に必要の運航に必要が の運航に必要である。 の見方やGP	要な船員の職 意味を理解し	海性を身につける。 ・務を理解する。 ・、安全に実行する。 ・基本的な取扱いを身につける。						
ルーブ!	リック		四相仇人孙表上 於其	無性的もないましょ		ナがましいよの日ウ			
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベ		未到達レベルの目安			
評価項目	1		船内生活に必要な知識及び慣海性 を十分理解し実行できる。	船内生活に必要な を理解し実行でき		船内生活に必要な知識及び慣海 を理解できない。			
			船舶の運航に必要な主要な職務を	船舶の運航に必要					
評価項目:	2		十分理解できる。	理解できる。	でエダルの一	理解できない。			
評価項目	3		非常部署操練の意味を十分理解し 、安全に実行できる。	非常部署操練の意 全に実行できる。	味を理解し、安	非常部署操練の意味を理解できたい。			
学科の	到達目標工	頁目との関	係						
教育方法	<u></u> 法等								
概要	_ <del>-</del>	練習船に	よる乗船実習、停泊時の夜間講義						
	め方・方法	・学事予 ・実習 1 ・乗船後	定に定められた日程で実施する。 週間前に各自に実施要項を配布する。 実習ノートを配布する。						
注意点		・必ず乗 ・乗船し ・所定の	船すること。欠席する場合はその理由 なかった場合は、不認となり進級でき 理由書を提出して欠席した者について	を担任に連絡するこないことになる。 は、後日乗船の日間	こと。 (学生便覧必読) きを指示する。				
授業計画	面	77172-3		1011	3 (2)(1)(7) (3)				
X <del>X</del> III		週	授業内容	1;					
		1週	実習内容の説明(前期乗船実習1泊2		実習内容を理解する				
		2週	船橋、船首及び船尾部署の入出港準備						
		3週	係船機取扱い要領		係船機を取り扱う				
		4週	船内号令詞、操舵号令詞、機関号令詞		船内号令詞、操舵号令詞、機関号令詞を覚える				
	1stQ	5週			乗船中の諸注意、船内秩序を学ぶ				
					非常部署、救命胴衣着装法を知る				
		6週	非常部署、救命胴衣着装法		船内組織と乗組員の職務を学ぶ				
			船内組織と乗組員の職務		海技免状、無線従事者免許等を知る				
前期		8週	海技免状、無線従事者免許等	T I	一個なない、無縁促動自光計等を知る 船内各部の名称を調べる				
		9週	船内各部の名称	i i					
		10週	船橋当直		船橋当直を行う ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				
		11週	航海当直中の観測及び記載事項		航海当直中の観測及び記録事項を行う 見張り要領及び双眼鏡の使用法を知る				
	2ndQ	12週	見張り要領及び双眼鏡の使用法						
		13週	機関制御室の入出港準備及び作業要領		機関制御室の入出港準備及び作業要領を行う				
		14週	船内生活から生ずるゴミ処理		船内生活から生ずるゴミ処理を知る				
		15週	舶用英語		船内機器等の名称	を失語で見える			
		16週	期末試験		成績評価、確認				
		1週	実習内容の説明(後期乗船実習1泊2		実習内容を理解する				
		2週	船橋、船首及び船尾部署の入出港準備			準備及び作業を行う			
		3週	係船機取扱い要領		係船機を取り扱う				
	3rdQ	4週	船内号令詞、操舵号令詞、機関号令詞		船内号令詞、操舵号令詞、機関号令詞を覚える				
後期	SidQ	5週	航海当直		航海当直を行う				
		6週	手動操舵		手動操舵を行ってみる				
		7週	見張り及び報告要領		見張り及び報告要領を実践する				
		8週	GPSによる船位測定		GPS船位を海図に記入する				
		9週	対景図の描画		対景図の描画を描く				
		10週	係船設備及び係船索の名称	1	係船設備及び係船索の名称を調べる				
		11週	係船機の名称と運転及び手先信号	1	係船機の名称と運転及び手先信号を学ぶ				
		12週	機関当直、船舶の出力装置	1	機関当直、船舶の出力装置を知る				
	4th0	12週			機関室諸装置及び機器配置を調べる				
	4thQ	13週	機関室諸装置及び機器配置		機関室諸装置及び	機器配置を調べる			
	4thQ					機器配置を調べる 署訓練を体験する			
	4thQ	13週	機関室諸装置及び機器配置	ļ		署訓練を体験する			
	4thQ	13週 14週	機関室諸装置及び機器配置 防火部署、退船部署訓練	ļ	防火部署、退船部	署訓練を体験する			

				治団/−=□±	ナカナハフ海回	マルナンでは 4世 5 かっかん	- 当明で土フ	Τ.	<u> </u>	
	分野別の専 門工学		地文航法		されている海図[ :利用して、航海(				L	
				小鉛音応を	.かけかし し、がは母( 	こ心女は1月牧でり 	x未りることがじ 	_ ල ව   1	L	
		  商船系分野		航路標識の	種類と名称、意味	<u>未を説明で</u> きる。		1	<u> </u>	
		(航海)		船位測定に	船位測定に用いる方法の種類とその特徴を説明できる。				L	
				交差方位法	交差方位法・レーダ等により船位を求めることができる。					
	分野別の工 学実験・実 習能力		操船論	入出港計画 の意味を説	iについて、入港: i明できる。	コース、入港前の	D減速位置につい	てそ	L	
						仲間と協力し、	指示を受けた作	業を	3	
					てコミュニケー	ション(英語を含む	む)をとる方法を	説明 3	3	
						の儀礼式)につい	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3	 3	
				航海当直の	役割を説明できる	<del></del> る。		3	3	
専門的能力 				航海計器等	を運用し、航海(	こ必要な情報を活	5用することがで	できる <sub>3</sub>	3	
				防火部署、	防水部署など保	安応急部署につい	ヽて説明できる。	3	3	
		商船系分野 (航海)【実		狭水道航海	:、狭視界航海法、			5. 3	3	
		験・実習能力】	練習船実習	航海海域を	理解して必要な	青報を収集し、船	前海計画を立案で	きる	3	
				船舶安全法	による船舶検査の	こついて説明でき	きる。	3	3	
					·			3		
				航海における。	航海における気象観測の必要性を理解し、観測を行うことができる。				3	
					のための過程を記	説明できる。		3	3	
				停泊当直の	停泊当直の意義を理解し、当直を行うことができる。					
				入出港部署	入出港部署について理解し、実施できる。					
					手順を説明できる			3	3	
				周囲の状況 る。	と自身の立場に	照らし、必要な行	<b>可動をとることが</b>	でき」	L	
				自らの考え	自らの考えで責任を持ってものごとに取り組むことができる。					
					目標の実現に向けて計画ができる。				L	
					に向けて自らを行			1	L	
				日常の生活  。	における時間管理	里、健康管理、金	会銭管理などがで	:ea	L	
				社会の一員る。	社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。					
				チームで協	チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。					
				者の意見を	チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。					
					をもってチーム <sup>-</sup>	での作業・研究を	を進めることがで	: きる <sub>1</sub>	L	
				チームのメ	チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。				L	
				リーダーが	とるべき行動や	殳割をあげること と	 こができる。	1	L	
	態度・志向性/ は関わり				性に沿った協調				<u>L</u>	
分野横断的 能力		態度・志向 性	態度・志向 性	リーダーシ での相談が	ップを発揮する( 必要であること <sup>を</sup>	させる)ためには を知っている	は情報収集やチー	· · · · · · · · · · · · ·	L	
רעשא	性(人間力)		1	法令やルー	ルを遵守した行	動をとれる。		1	L	
				_	れている状況に配			1	L	
					技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に   負っている責任を挙げることができる。				L	
					自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。				 L	
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かってい				-		
				くために現	くために現状で必要な学習や活動を考えることができる。 キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認				_	
				識している	識している。				L	
				難に直面し	これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。				L	
				高専で学んように活用	高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどの ように活用・応用されるかを説明できる。				L	
				高専で学ん	高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように 活用・応用されているかを認識できる。				L	
					企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることがで				L	
				さる。   コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき   能力」の必要性を認識している。				5べき 1	 L	
 評価割合	I	I	I	ארח נרלמיון.	・女工で心部して	0 60 i				
<u>- 1 1997 PT</u>	≣ <del>↓</del> # 全	☆〜	233 +	3万部体	能度	ポートフォリ	その他	△≣∔		 合計
	試験	航海美		 	<b>悲</b> 浸	オ	,-	合計		
総合評価割合	3 25	50	0		25	0	0	100		200

基礎的能力	25	50	0	25	0	0	100	200
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能 力	0	0	0	0	0	0	0	0